

令和6年6月10日開会

令和6年度第3回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和6年度 第3回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年6月10日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 草野 浩一
午後1時57分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後4時47分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻前ではあるが、定足数に達しており、令和6年度第3回教育委員会定例会を開会した。

議案第11号については、非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

2 令和6年度第2回定例会会議録の承認について

令和6年度第2回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議事

報告第20号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について

報告第21号 垂水市社会教育委員の委嘱について

議案第11号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について

4 その他

(1) 「教育委員会の事務の点検・評価について」令和5年度の重点施策の推進状況の自己点検について(報告)

(2) 学校施設について

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第 20 号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するものである。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 21 号 垂水市社会教育委員の委嘱について</p>	<p>垂水市社会教育委員条例第 1 条及び第 2 条の規定する委員について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するものである。</p>	特記事項なし	承認
<p>議案第 11 号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託について、令和 6 年 8 月 1 日から令和 9 年 7 月 31 日までの履行期間を契約とする新たな委託事業者を公募型プロポーザル方式で選定するに当たり、新たに委員を委嘱しようとするものである。</p>	特記事項なし	原案可決

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>報告第 20 号 垂水市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について (資料に沿って説明)</p>
教育総務課長	
社会教育課長	<p>報告第 21 号 垂水市社会教育委員の委嘱について (資料に沿って説明)</p>
教育総務課長	<p>議案第11号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会委員の委嘱について (非公開) (原案可決)</p>
4 その他	<p>「教育委員会の事務の点検・評価について」令和5年度の重点施策推進状況の各課の自己点検について(報告) (資料に沿って説明)</p>
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	
田原委員	<p>垂水高校の振興支援の取組については、資料のとおり成果が出てきていると考えるが、市民など一般の方にはまだ十分に伝わっていないところがあるのではないかと考えている。これらの活躍はしっかり周知を図ってほしいと思います。</p> <p>また、この前、教育委員会学校訪問で垂水中央中学校を訪問して分かったことの中で、PTA主催で保護者が垂水高校の視察を実施している話がありましたので、これもいいことだと思いました。</p> <p>最初から垂水高校を目指している子どももいるでしょうから、その保護者が実際に高校をみることはいいことで、「そういう取組もやっています」というあたりを広報してほしいと思います。あまり知られていない取組については特にお願いしたいと思います。</p>
教育長	<p>確かになかなか伝わっていない。市の広報誌や学校だよりもたまに自治会の回覧で目にしたりします。ただ、みんなが見るか、そして見て記憶に残るか、そんな気がします。</p> <p>しかし、本当にいろいろと取り組んでおり、また、結果を出しているのので、やはり、事あるごとに、そういう関連の会があったときに、宣伝してくれば一人から次にと、拡がっていけばいいと思います。</p> <p>昨年、内閣府のコンテストで九州大会まで行ったときに、経済同友クラブで内容を発表したこともありました。ああいう経営者の方々に取組を知</p>

	<p>らせることができ、それは一つ、また拡がりという点ではないかと思ひます。</p> <p>また、「全国高校生冷凍めん料理コンクール」で最優秀賞、これは新聞に出ていました。</p>
田原委員	<p>あと、海潟のかんぱち祭りですけれども、あれもいいですね。ニュースでも取り上げられて、やっぱり効果がありますね。</p>
教育長	<p>以前、フィッシュガールという名前で活動をしていましたけれども、四国の学校が商標登録をしていたこともあり使えなくなったことから、今回、「フィッシャリーガール」と名前でかんぱち祭りに出ていました。こうしてみると垂水高校の生徒も先生方も頑張っています。</p>
葛迫委員	<p>先ほどの垂水高校生活デザイン科の3年生による「全国高校生冷凍めん料理コンクール」で最優秀賞、商品化の考えはないのですか。</p>
教育総務課長	<p>学校側からはそのような話は伺っていないところです。そのようなご意見があったことは機会をみてお伝えしたいと思います。</p>
葛迫委員	<p>どこかが商品化していましたよね。コンビニとかとタグを組んでやっていくと名前が出てもっと周知されると思います。</p>
福里委員	<p>確かな学力の定着のところで、自由進度学習の話がありましたが、小学校も取り組んでいるのですか。</p>
学校教育課長	<p>今、取り組み始めている学校があります。</p>
福里委員	<p>中学校の授業参観のときに、数学の授業がそれだっていうことで、見せていただいたのですが、しっかりしている子はいいのかもしれないのですが、何となく「大丈夫なのかな」と感じました。</p> <p>今流行りだというのはわかっていますが、何ていいますか、前にあった授業参観では、ちゃんとやらないと、1時間あっという間にすぎ、しない人は、しないという点が目につき、先生がそこまで追求しないというか、個人に任せているみたいな感じがしました。</p> <p>今回も「ただ座っているだけで、大丈夫ですか」という子がいて、「すごい差がついてこないのかな」ということを感じました。</p> <p>しかし、友達同士で教え合ったりとか、ノートとか、タブレットとか、いろいろ自由に選べるのですが、子どもがしっかりとしていないと、ちょっとその悪い面が出てこないのかなというのがあったりします。ましては、小学生となると。</p> <p>私たちの時代にはなかったことなので、そういう問題点みたいなものはないのかなと感じました。</p>
学校教育課長	<p>この前の中学校市教委訪問のときにも、同じように、数学の授業で自由</p>

進度の学習だといっている行っていましたけど、教育委員会としては、あれは自由進度学習ではなく、自由選択学習と思っています。

1時間の授業の中で、どのプリントをするかというだけの話ですので、自由に進度を子どもが選択して、友達と教えながら進んでいる学習ではないというのが教育委員会としての考え方です。

だから、多分自由進度学習については、まだまだで、言葉が独り歩きしてしまって、それぞれの先生が、それぞれの思いで、今チャレンジをしはじめているだけかなと思っています。

今度、垂水小学校で4年生が自由進度学習で研究公開を行うのですが、これは私たちがイメージしているものに近い形の自由進度学習です。

自由進度学習は下手にしまうと、結局先生の見取りができないまま子ども達がどこまで学習が進んでいるのか把握できないところが一番課題としてあります。

それに対して、今度の授業の場合には、1コマに10時間ぐらいの単元を3つのセクションに最初から分けています。

そして、この1セクションの中での進度については、子ども達がいろいろな進度のやり方を、自分でチョイスしていきますけれども、一応そこが関所になっています。

このところで一旦、多分先生がすべての子ども達の学びを見取るのだと思います。

そして、次のセクションに行ってもいいのかどうかというのを判断して送るという形を多分取ると思います。

学習指導案を見るとそういう形でしたので、それぐらい先生がやっぱり意図的に、子ども達の学びを見取っていかないと、自由進度学習は遊ぶ子がやっぱり出てきてしまう。それから、何もせず、ぼーっとして時間が過ぎてしまうという子は出てくると思います。

教育長

今委員から出たことは当然のことながら、今、学校教育課長から見取るという言葉がでましたけれど、分かりやすくいうと評価です。

きちんと評価をして、そして足りないところはきちっとまたそこを補ってあげないことには差が広がっていくわけです。

だから、関所という言葉がでましたが、やはりきちっと自由時間の学習の中で、形成的評価という言い方をしますけれども、どこまでできているかというところの見取りをして、そこを補っていかないと、次のステップにいけないわけです。それでないと学びじゃないですよ。

一つのセクションの中の過程での差はあっていいと思います。あってもいいのですけれども、必ずここで一旦、評価をしてあげる。きちっと、大丈夫かっていうことも含めて、次のセクションへ進んでいくと、最終的には1単元でどんな力がついたかということ、子どもも、教師も、しっかりと認知できる、「メタ認知」とかいいますが、そういうふうな学習だろうと私は思っています。そうすると、この自由進度学習は生きてくる。

だから、中学校は学校教育課長がおっしゃったとおり、選択になってしまっているのじゃないかな。

やっぱり、この自由進度の持っていく方に気をつけないと、ますます差を広げていくということになります。

福里委員	<p>「友達や誰かに教えてもらったからよくわかった」とかいうのはよく言うのですが、授業を見ていて「大丈夫なのかな」というのは、素朴に思ってしまいました。</p> <p>そんなにして、ちゃんとチェックするところがあれば、何の問題もないですね。</p>
教育長	<p>今、変わっていく途中だと思しますので、今回の垂水小学校の研究公開の授業というのが提案になっていくのかなという気がします。</p>
田之上委員	<p>社会教育課は、随分すっきりした感じがすごくしています。</p> <p>コロナ禍があつての徐々に回復する方向へ向かいつつ、名称についての話が先ほどから出ていますが、市民スポーツフェスティバルにしてもそうですけれども、名称が変わったりとか、中身が変わったりとか、それがやっぱり市民に周知されないと、「なんか、市民体育祭なくなったよね」で終わってしまう。例えば、レクリエーション大会、あれだと、「行きたいけど自分たちは参加できないよね」とか、やっぱり周知をしていかなければいけないと思ったりします。</p>
社会教育課長	<p>参加者の集約は、地区公民館で振興会とか、子ども会とか、いろんなところから募ってチームを選出しているのが現状みたいです。</p> <p>コロナ禍の中で、やっぱり問題点があつたのが、人を集めるのがなかなか難しいというのが一番でした。</p> <p>だから、コロナ禍で規模を縮小した中では、やっぱりそういった地区や子ども達に「何人出なさい」ということではなくて、参加できる人数でグラウンドゴルフ大会しようかというのが名称変更のきっかけだったみたいです。</p> <p>グラウンドゴルフ大会だったら結構出る人がいたのですが、コロナ禍で人数制限があるなど、いろいろあつた中で、昨年、「振興会単位で出すのはどうなのでしょう」という話が地区公民館協議会で出ました。</p> <p>その前までは振興会と話をしていましたが、「地区公民館でまとめてした方がいいのではないか」というような意見が、去年、一昨年からあり、「振興会単位の参加でなくても、振興会の枠を飛び越えて参加できるようにしたらどうだろうか」というような意見があり、レクリエーションも含めて、今度の市民スポーツフェスティバルからやってみようかということになりました。</p> <p>種目については、まず、公民館単位で「これまでの運動会がいいのか」、「レクリエーションがいいのか」、「グラウンドゴルフがいいのか」のアンケートをとったところ、「やはりもう運動会になれば、やっぱり競争意識が高くなるから、選手が集められなくてちょっと厳しいよ」というのが皆さんのほとんどの意見でした。</p> <p>残りの「グラウンドゴルフ」、「レクリエーション」の両方については多かった中で、「やっぱり、垂水市は高齢者が多いからグラウンドゴルフが一番活発である」という意見や「振興会も各地区の中で出るのですけれども、振興会をまたいで出る人もいいのではないか」という意見が出て、いわゆ</p>

る、その各地区の代表の方が申請していけばいいのではないかとということで、いわゆる「友達での参加もいい」ということでやってみようかということが去年の話し合いでした。

また、今年改めてその話を最初にしたときには、「今の状況では、グラウンドゴルフが一番よかったよね」ということで今のところなっております。

ただ、課題として参加者の多くが高齢者の方だけだったりしたものですから、昨年ご意見をいただいた中で、協和から子ども達が子ども会に出ていたということもあり、「子ども会も入れた方がいいよね」ということで、我々の方からの子ども会とPTAにも声をかけて、親子でもいいですから、とにかく地区公民館の方に、チームを作って参加させるという形とする予定としております。

併せて、まだ確定ではないのですが、毎年12月に行っている子ども会の綱引き大会も一緒にできないかということで今動いております。

最終的には10月は、「スポーツフェスタ」という名称になっていることから、たるみずスポーツランドではグラウンドゴルフ大会を、体育館では綱引き大会をと考えており、参加者については、中央地区は人数が多いことから、人数は地区に任そうと思っています。

また、牛根地区や境地区は、たるみずスポーツランドからは遠くなるので、どちらも参加しないのではなくて、参加できるように参加してくださいとお願いすることで計画しているところです。

なお、フェスティバルですので、午前中は大会として、午後からはもう自由に施設を提供することで、現在スポーツ推進委員と公民館連絡協議会に話をして了解をもらっているところです。

そのため、田之上委員が言われたみたいに、周知をきちんとしようということも出ておりますので、きちんとやっていきたいと思っております。

教育長

前の大会の名称、ここも丁寧に記載しないといけないですね。旧何々が新しくこれになりますというようなことですね。

そのスポーツフェスタというのは、いわゆる市の体育館も、たるスポも1日開放するというので、午前中はそういう大会をして、午後からは無料で、どうぞ好きにも使ってくださいということで、10月もまだ暑いですから、市の体育館はエアコンがきくからいいですよ。

福里委員

暑いですよ。

綱引き大会の参加は、いつも中央地区以外の学校だけです。

中央地区は、振興会でというか育成会に任せていて、なかなか参加がないです。それこそ協和地区と新城地区と柗原地区からの参加です。

だから、例えば学校単位で、5・6年生で、1チーム出してくださいとかすれば、子どもは喜ぶと思います。みんなで力を合わせて、何かを頑張るみたいなのはどうなのでしょう。

先生がそこについていてくれたらいいなと思いますが、休みの日だから、休日出勤とかがあるのですかね。そこがあるかもしれないですけど、垂水市全体で何か起こす行事は、昔は市民全体ですごく盛り上がっていた。

校区が盛り上がるすごい一大イベントだったのに、それがなくなってしまって残念です。

確かに、人口が減っている地区では人を集めるのは大変だと思うのです

	<p>が、みんなで何かこう、幼稚園とか、保育園とかも入れて、垂水市全体ですればいいのかと思っています。</p> <p>垂水小学校は、そういう機会には恵まれないというか、親が連れていくとなるとなかなかで、柘原地区や新城地区などは一生懸命で、熱心なので先生たちもきます。</p> <p>休日出勤といわれれば、もうそこまでなのですけど、なにか、もうちょっとやり方があるのではないか。</p> <p>やっぱり子どもが来れば親も来るので、垂水小学校の校長先生はいろいろなものに顔を出してくださって、出さなくてもいいのも出してくださっている。こないといけない行事じゃないのにもよくこられてたりとかしています。それこそ肝属陸上に校長先生が応援に来られたことは、初めてでした。出場させたかったのかもしれないです。強制にしたら難しいですよ、なかなかなのですかね。</p> <p>しかし、もう今おっしゃったようにまとまるいい機会でもあるので、やっぱりそういう競争って子どもは喜ぶますよ。綱引きは本当に盛り上がります。ただ、綱引きとなると、学年の差が出てしまうので、玉入れなど何か簡単なもの、例えばニュースポーツとかでもいいですね。</p>
社会教育課長	綱引き大会は逆に外国人も盛り上がっています。
葛迫委員	小学校、中学校は、クラスごとに出たらいいのではないか。学級対抗みたいな、それこそ陸上競技大会はあるけど。
福里委員	收拾がつかなくなるのですかね。
教育長	今年度までこのままやりましょう。
教育総務課長	<p>学校施設について (口頭説明)</p>
教育長	先月の話は、この2つの話でしたかね。
福里委員	排水ができないから、プールの水面にいろいろなものが浮いている的な話を聞きました。
学校教育課長	<p>田園地帯の学校のプールの場合には、カエルがよく卵を産んだりするので、体育主任が毎朝来て、子ども達が入る前に必ず周りを見て、中を見て、汚れていたら全部、まず、掃除をします。</p> <p>それから、プールにはカルキが入っているのですけれども、毎朝測って、毎日これだけの数入れるとか、短めの休み時間とか、途中で測って、追加をすとかで、学校は水質管理をきちっとやっているはずですが、そこ通らなかったのですかね。</p>
教育長	たまたまそういう状況を目にしたのか、常日頃からそういう状況があれ

ば、学校は放置しないですよ、幾らなんでも。
今度、学校訪問がありますから、プールまで行きましょう。

5 委員並び に教育長及 び課長報告

委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員

5月17日、鹿児島市であった市町村教育委員会連絡協議会総会でした。教育長も行かれ、私たちが4名参加をしました。

原之園会長からの挨拶が非常にユニークで面白く、印象に残っております。ある会合で主催者が立派な挨拶をされた。感心していたら、その方が最後に生成AIで作成したものだと言われた。途端にみんながしらけたそうです。しかし、これからは、こんなことが当たり前になる世の中になりそうだと。少なくとも、利用者がしっかり手を加えて、本人の文章に近いものとして欲しいなというふうに思いました。

また、講演の中でありましたが、第4期県教育振興計画の作成について、子どもや若者、子育て世代などに広くアンケートをとって、意見聴取をして作成しているということで、参考になったなと思うことでした。

それから5月19日、日曜日、垂水市の生涯学習オープニングフェア、天気が良くて、参加者も大変多いでした。

今年は、全講座の活動の様子を映像で紹介されていて講座の様子がよくわかって、よかったと思いました。

また、受講生代表の挨拶が最高によかったと思います。コロナ禍に札幌から移住された女性が、垂水市役所の対応のよさや友達を作るために、ヨガ講座に申し込み、3年目になり、すっかりヨガの魅力にはまっていること。多くの友達ができて、本市での生活を夫婦で楽しんでおられることなどを話されて、聞いている私達までうれしくなり、いい話でした。こんな過疎の市を選ぶというのはすごいですね、立派だと思いました。

5月20日、月曜日、学校訪問で、松ヶ崎小と協和小でした。松ヶ崎小は現在3学級の8名。8年度から2学級の6名になりそうということで、ごく小規模ながら、非常に研究熱心な先生方と、その指導を素直に吸収する児童たちの努力で、確かな学力を身につけているのだなということがわかりました。

子ども達のタブレットの活用能力が高く、遠隔合同授業や反転学習など日常的に実施されていた。また、2人の学級では、能力差が大きい児童の場合は、子どもの主体性を生かす指導というのは難しいなと、先生もちょっと、てこずっていらっしゃいましたが、難しいなというのを思いました。

協和小では、すべての先生がすべての領域で、養護の先生もそうでしたが、すべての領域でICTを十分に活用して、そのよさを生かしているというのがよくわかりました。子ども達の活用能力も高く、自在に使いこなしていた。先生方はICTを効果的に使い、5年生も算数の学習では、家庭での学習はタブレットで考えてこさせて、発表者には黒板で問題を解かせて、先生の解説も黒板で行い、児童もノートに問題を解いていました。

この辺は、ノートのよさとタブレットのよさというか、それぞれのよさ

を十分に生かした授業だったなということで、さすがだなと思いました。

6月5日、垂水中央中の学校訪問でしたが、先生方と生徒との人間関係が大変よくて、どの授業も規律正しく、先生方の指示がよく通って、スムーズな授業が展開されておりました。特にグループでの話し合いの活動に慣れていて、話し合いながら、タブレットにまとめていくなど、ICTの活用も効果的であったと思います。

全体的に、静かでおとなしい感じの授業が多かったので、後でも言いましたけれども、家庭学習で次時の学習内容を予習してきて、授業で勉強してきた内容を出し合ったり、議論し合ったりして、学びを深めていくような反転学習を取り入れたら、先生方も生徒ももっと充実した授業になるのではないかということも考えました。

葛迫委員

田原委員と同じ内容になってしまいましたが、5月17日、金曜日でした。県の市町村教育委員会連絡協議会の定期総会、鹿児島市民福祉プラザの5階で開催されました。

やっぱり、冒頭、会長である市の教育委員会の原之園教育長の挨拶の中でのコメントでしたけれども「授業の中で、マッチを見たことがない子ども達がいたことに驚いた。家はオール電化だからと女性の声でした。火打石からマッチ、そしてマッチからライター、そして電気へ、と火を熾す道具が移り変わっていく。このように文化や社会はどんどん変わっていく。そして新しい文化が生まれていくと感じた」と話されていました。

新しい道具や新しい言葉が、日々生まれていく現代社会ですけども、私たち大人は、その道具や言葉などをいち早く取り込みながら、新しい文化として、それを創生し、次の時代へ繋げていかなければならない義務が必要であると感じたこの日の総会でした。

19日日曜日は、生涯学習フェアに私は講師として参加しました。

20日の月曜日、松ヶ崎小と協和小の学校訪問、松ヶ崎小は児童数8名のごく小規模校ですが、ICT機器を効果的に使うことで、他校との遠隔授業によって深い学びができていくことが感じ取られました。また、教師と児童との近い距離感を感じた学校訪問でした。

協和小学校では、5年生7人、6年生5人の12名の複式のクラスの授業を拝見したときに、教室の大きさに比べて、子ども達の動く範囲が広く、教室が狭いなというふうに感じました。今の子ども達は、昔の子供たちと違って体も大きく成長しています。そして教材もどんどん増えています。何か対策を考えて欲しいなと思ったところです。

21日の月曜日は、水之上小学校の職員研修に、絵画指導法について研修を行いました。

6月5日、水曜日、垂水中央中学校の学校訪問。校門をくぐり抜けて玄関に入って、静寂した空気のもとで、整然とした靴箱に生徒たちの靴が並んでいる。その光景を見ると、体が引き締まる思いでした。学ぶ力が湧いてくるようです。不登校やいじめ問題があるようには感じません。もしあるとすれば、このことを感じない人たちがいるということだと思います。

心を豊かにした健全なる育成、そして、人間形成のために、相手を思いやる気持ちや知的好奇心といった目的を持つ情操教育がもっと必要になって来ているのかなと感じたところでした。

教育長

水之上小学校の職員研修は、先生方の反応とかがいかがでしたか。

葛迫委員

なかなか子ども達に絵を描かすことがやっぱり大変です。みんなそうなのですけれども、どの授業もそうなのですけれども、子ども達が興味を持たないことには、なかなか子ども達は「絵を描かない」、「勉強もしない」。

その興味を持たすことが一番難しいのかなと思って「どうですか」と先生に聞いたところ、「そうですね、やっぱりなかなか絵を描きません。」とのことでしたので、こう言いました「大人も絵を描きませんから、絵を描くことはなかなかだけでも、手を動かしてさえすれば、仕上がっていく。何となく見てください」と言ったのですが、絵は描くよりもスケッチ大会っていうのはもう遊ぶものだとも思っています。スケッチ大会のときは、だから遊ばしていいですよ。そして、外に出ることが楽しかったですね。でも、今の子ども達は外に出ない。今のスケッチ大会は、タブレットで写真を撮って、それを加工して、どういうふうに取り除くとか、そういうことから始まっているから、なかなか描かないよなという感じはしました。

だから、先ほど話が出ていました「自分でこうする、自由進度学習」と一緒だと思いました。だから、描くことを求めるよりも、自分からしたいと思うとき、それを待つことの方がいいのかなと思ったところでした。

だから、先生たちにも一緒に描いていけば、描くのですけども、自分も子ども達の教室をしているときに子ども達ばかり並べると、絶対描かないので、どうしたらいいのかなと思って、今度は大人をつけると絶対描くよなと思って、それか、子どもと子供を離す。絶対机と一緒に並べたら話し込んでしまうから、勉強もだけど、絵も描かないから1回そうしたらどうですかということを行いました。

ただ、絵を描かすこと、勉強をさせることは先生たち大変だなと思いました。

ただ、中央中の学校訪問のときに絵を見て「やっぱり、うまいな」と思っています。だから、勉強も上手になっているけど、絵を描くこともやっぱり上手になっている。ただ、絵を見たときに感情がわからない。全部同じように描いているものだから一人ひとり個性がないものだから、そういうのがちょっとやっぱり必要だなと思いました。

田之上委員

私の方も重なる部分が多いですが、学校訪問についての感想を報告したいと思います。

松ヶ崎小学校です。小規模校ながら、いつも綺麗に整っていて気持ちのいい学校だなあと感じます。先生方、全員が子供たち一人ひとりを把握されていて、大切に育てられているなと思いました。

授業の様子でも、これまでの授業にさらに工夫が見られて、これからますます全員が積極的に授業に臨めるようになって欲しいところです。

また、地域の高齢化が懸念される場所ではありますが、学校と地域が密に連携して、お互いが活性化していける学校になって欲しいなと思ったところでした。

協和小学校ですが、準備していただいた資料1ページに今年もニコニコ

元気な先生方の写真があつて、協和小学校の雰囲気よさ、子ども達とのいい関係性が感じられました。

学力面でも、各テストの考察がしっかりされており、今後の伸びに期待したいところです。

生徒指導の推進においても「学校楽しいーと」の活用や寄り添う教育、ボランティア活動、数々の体験活動を通して、心の教育にも進められているとのことでした。

少し児童数も多い複式校なので先生方は本当に大変だと思いますけれども、子ども達はとても元気が良く、声もよく出ているなと思いました。

中学校ですが、1年生もすっかり中学生らしくなり、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っているように感じました。授業の様子を参観させていただき、生徒と先生方との関係の良好なように感じました。授業中のやりとりも積極的に行われているようでした。

技術分野の授業では、講師の方とZ o o mでオンライン授業を取り入れられたり、タブレットの活用や各I C T機器の使い方が日常的になりつつあるなということを感じました。

さらに今日の午前中は、中学校で学校運営協議会に出席しました。ランドデザインについて、校長先生が地域の委員の方々に熱く語られました。

皆さんも学校の思いというのをわかっていただけたのではないかなと思ったところでした。

授業も少し見せていただいたのですが、理科の授業では、子どもによって違うのですけれども、タブレットだけをテーブルの上に出して、もう授業聞いている子もいて、G I G Aが始まったころに教育長先生が、文房具としてのタブレットの話がされていたなというのを思い出したところでした。子供たちの使い方はそんなふうになりつつあるのだなと思ったところでした。

あと、コミュニティスクールですが、学校教育課長より詳しく説明があつて、理論上はすごくよくわかるのですけれども、実際のところ、本当に「何を」「どのように」していけば、私たちもいいのかなという、まだ手探り、多分学校も手探りの状態なのだろうなというのは、改めて感じた時間でした。

教育長

学校訪問を中心に、学校運営協議会まで報告していただきました。

それぞれの学校のよさに視点を当てていただいているのは、本当に学校にとっては元気が出てきます。

福里委員

私がかぶらないように。中学校では5月の下旬に職場体験学習がありました。例年、幼稚園でも受け入れをしており、今年度は、4名幼稚園に来てくれました。

全員卒園生で、私もすごくうれしかったです。

あと、4人が4人とも幼稚園の給食が食べたいと言っていました。小さな子への声掛けは大丈夫なのかなと思っていたのですが、すごく上手に声をかけていて、意外な面が見えました。

なんかそれで幼稚園の先生になりたいとまで言い出して、もちろん息子だけでなく、市役所の環境センターに行った子たちにも友達がいきましたが、

そこは市役所の総務課の担当の方が、「公務員はこうあるべき」みたいな、公務員の仕事について話をしてくださったみたいです。

そこは担当者がすごく上手に話をされたのだと思うのですが、そのうちの1人が今までは全く言っていなかった「公務員になりたい」と言っていたようです。

あと1人の子は卒園生なのですが、垂水温泉クリニックの介護施設の職場体験に行ったら、1日目にどら焼きを作って帰ってきて、みんなで食べていました。2日目は入浴介助後の着替えの手伝いだったようで、これまで介護には全く興味がなかったけど、「すごいやりがいを感じた」と言っていたと、だから、職場体験ってすごい役にたっているとかその子どもの未来に役に立つじゃないけど、いろんな目を向けるいい機会になっている、とても意味のある体験なのだと感じました。

5月の下旬だったと思いますが、高校の説明会が中学校でありました。正確には覚えてないのですが、全部で10校ぐらいでした。保護者も参加可能で、私は仕事があったため、午前中だけ参加しました。

2日間に分かれてあったのですが、その中で、高校の先生から「勉強をしないと入れません」という言葉がありました。

後で、中学校の運営委員会の際に、そのときの話を聞いて「スイッチが入った子が多かった」、「勉強をしないと駄目だと思った子が多かった」と先生から聞きました。

やはり話をする先生の言葉で全く変わって、「ここを目指そうかな」とか、「やっぱりやめよう」とか思ったみたいです。

今からオープンスクールがあると思います。行く予定ですけど、いろいろな学校を見ながら、決めていけたらいいなと思うところでした。

教育長

前段の話の職場体験はいいですね。もうそのとおりだと思います。子ども達は職場に入ってみて、気づかされること、「あー自分の中にこういう気持ちがあったのだ」というようなことも含めてですね。

だからいいのでしょうかね、いろんな体験を通して、将来の自分を考える、見つめ直す、そのことは社会貢献とか、やりがいとか、そっちに繋がっていけば、その体験の意義が深いです。

教育長

では私の方からは、6月1日に行われました2つの教育委員会のイベントを紹介いたします。

まず、ICTのジュニアリーダー育成講座の開講式を行いました。今年度の目玉事業ということで学校教育課長が計画を立てて、そして今村さんと大坪さんが形にして始めたもので、いうとGIGAスクールのリーダーの育成、そういうこともねらっていますし、先ほど来、出ています学びのリーダー育成、こちらにも広げられたらなという私の思いもあります。

募集定員は15名だったのですが、11名の申し込みがありました。ただ、きている子ども達はやはり興味関心の高い子で、目を輝かせて、そしてどんな講座の中身なのだろうと期待感をもっていました。

中身で申し込んでくれたことには、褒めてあげることでございました。中身としては、メタバース体験、今よく言われています仮想空間を体験するという講座だったり、あとプログラミング体験ですね、これもございま

すし、これには鹿児島高専も絡んできます。

ですので、よりレベルの高い学びができるのかなと思っていますし、最終的にはプレゼンテーションをつくりながら、垂水の魅力とか、よさを発信し、最終回は発表会ということで、閉じるというような内容になっています。

そのあと30分ずらして、垂水おもてなし隊の結団式を行いました。こちら私も私が挨拶をさせてもらい結団式が行われた後、南大隅町の南蛮フラッグの演武を見てもらいました。そのあと、団員の交流をしてという流れだったのですけれども、実は南大隅町の南蛮フラッグとうちのおもてなし隊は同じような趣旨でつくられた組織なのだというのがわかり、なお、身近に感じたところでございます。

南大隅町の南蛮フラッグはご覧になられたことがあるでしょうか。昨年の市の文化祭で実は発表したところですよ。文化協会の会長の肝いりでお招きして演舞をしていただきました。

小学生、中学生、高校生からなる子ども達が、南大隅町のよさをもっともっと自分たち自身も知って、発信していこうという取組なのですよね。それをうちでいうところのおもてなしというような感じですよ。

私を感じましたその南蛮フラッグの子ども達は、南蛮ですから、いわゆる琉球だとか、中国だとか、あちらの影響を受けているわけで、その踊りを取り入れて、そして表現していく。これが、ものすごい迫力で、もう圧倒される。

そんな子ども達、小学生、中学生、高校生がそこを作り上げるまでに、やはり強力なリーダーがいます。南蛮フラッグを立ち上げて指導する。リーダーが、いわゆるそういうパフォーマンスに詳しい人を徳之島からだったですかね、直接呼んできて、子ども達と一緒に踊る。

何が強烈だったかという、そのパフォーマンスもさることながら、やっぱり自分たちの街に自信を持っています。誇りというか、これはすごく垂水の子も達にも欲しいなと思ったところでした。

その踊りを通して、子ども達はもちろん南大隅町の宣伝をするのですけれども、実は、そのことは自分自身の表現力を高めていくことに繋がっているわけです。

ですので、いわゆる演舞もさることながら、かけ声だとか、そのあとの交流会での自信満々たる表現力、そっちの方が私は素晴らしいなと思いました。垂水の子も達もその交流のところで、自分の街あるいは市の自慢の質問コーナーのところで一番うれしかったのは給食でした。給食がおいしいと。もちろんカンパチも出ましたし、垂水の子も達もわかっているのだと。

ただ、それをどう表現するか、その部分ではやはり南大隅町の子も達の方が堂々としていました。

「上の子が下の子を導いていく」という方向性や集団の在り方、そういうことがしっかりできているなという感じがしました。

うちも負けてないですよ、今年度は31名も参加が出ていますので、その中で高校生が5名入っています。うれしかったのは、鹿児島聾学校の子も参加していました。今聾学校の2年生になったのですよね。ずいぶん成長していました。団員交流でも、自ら質問をしたりとか、自分の考えを言ったりしていました。すごくよかったなと思いました。

また、小学3年生以上が多く参加してくれている中で、団長を何と福里委員のところのお子さんが自らから手を挙げて引き受けてくれて、これはいいなと思ひまして、大きく成長するきっかけになってくれると思ひます。すごくいい結団式、そしてまたいい交流会だったなと思ひます。

当初おもてなし隊の活動計画では宿泊交流を宮崎の方面で予定していましたが、隊員の皆さんがこの南大隅町の子を好きになったみたいで、ひよっとすると、南大隅へ方向が変わるかもしれません。また交流ができたらいいなと。向こうも喜んで来てくださいますということでした。いい交流ができて、南大隅町も垂水市も子ども達がどんどん盛り上げてくれると、南大隅町も本市も元気になるのかなと思ひするような結団式でした。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

5月14日から6月10日までの主な行事等について各課長が報告。併せて、6月11日から7月5日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会